平和記念だより 94

2025年1月

◆ 編集・発行 /高松市市民局人権・男女共同参画推進課 高松市平和記念館
◆ 連 絡 先 /〒760-0068 高松市松島町一丁目15番1号 たかまつミライエ5階
TEL(087)833-2211 FAX(087)833-2244

平和学習(こども未来館学習)

「こども未来館学習」は、高松市の小学校４年生(一部中学生)を対象に、たかまつミライエの各施設を活用して行う学習活動です。図工学習、図書館学習、科学実験学習、プラネタリウム学習、平和学習があります。当館が実施している平和学習は、平和記念館の展示物や資料、映像等を使って「高松空襲」や「戦時下のくらし」について学びます。また、「こども未来館学習」だけでなく、校外学習や総合学習でたかまつミライエを訪れ、平和学習を実施される小、中学校もあります。また、県内外の学校や園、団体等の皆様にも研修や見学で平和記念館をご利用いただいております。

平和学習には、４月から現在(１２月末)までに、合わせて 54 校(約 3,600 人)の皆さんが参加しました。研修や見学では約 1,400 人の方にご利用いただきました。今回は、平和学習実施後にいただいたお便りの中から、感想や意見の一部を抜粋して紹介します。

平和学習実施校の皆さんからのお便り(抜粋)

平和学習の後、お父さんに戦争のことを聞いたところ、お父さんのおじいちゃん（わたしのひいじいちゃんになる）からくわしく聞いたことがあり、わたしにそれを聞かせてくれました。当時と今の違いにおどろきました。

未来館学習の中で平和学習が一番心に残りました。今は平和だけれど、少し昔は日本は戦争をしていて大変だったことが分かりました。印象に残ったのは、戦争中は白いご飯をめったに食べられなかったことです。

高松空しゅうのこわさが分かりました。ぼくの学校も空しゅうで燃えたこと、当時ぼくの小学校の子どもたちが27人もなくなったことが分かりました。昔にそんなつらいことがあったことをぜったいに忘れません。

戦争中は、いろんな物が不足して、配給制になったことや、女の人が中心となって防空ごうをほったり、空しゅうの火事を消す訓練をしていたことが分かりました。戦争中は、苦しいことが多かったなと思いました。

高松市戦争遺品等収蔵品巡回展「上天神文化センター」

戦争遺品等収蔵品巡回展の様子

令和６年１０月４日(金)、５日(土)、上天神文化センターで「戦争遺品等収蔵品巡回展」を開催しました。戦争遺品や戦争に関する資料や写真パネル等、計 31 点を展示しました。ご来場の方からは、「平和が当り前になっている今、ほんの数十年前に高松で空襲があったことを忘れてはいけない。」「今の時代は平和で、幸せだとつくづく思う。だからこの今を大切に生きたい。」といったご意見やご感想をいただきました。文化センターの文化祭開催中ということもあり、大勢の方にご来場いただきました。ありがとうございました。

館内展示の紹介③

心象展示「再会の日」

平和記念館では、戦時下のくらしや空襲について、実物資料やレプリカ、マジックビジョンやジオラマ等映像資料により展示・説明をしています。その中の一つが、等身大の人形とサウンドドラマによる心象展示です。今回は、「出征の朝」「高松空襲と焦土の街」に続いて第３場面「再会の日」の場面で流れているサウンドドラマの音声を紹介します。ここでは、戦後復員してきた父と出会った子どもたちの戸惑い、そして家族と再会できた父の喜びが再現されています。戦後の混乱の中、家族が再会できた喜びと安堵の気持ちが伝わってきます。

登場人物
父親(復員兵)　母親　かつひこ(長男)　たかお(二男)

ゴーッ、プッ、チリン、チリン
―車のホーンと自転車のベルの音―
トン、トン、トン
―近くで釘を打つ金槌の音―

母親「かつひこ、終わったら、
たかおがジャガイモ掘っとん
手伝ってやって。」
かつひこ「よし、日がくれる前に
全部掘ってしまおうで。」
たかお「兄ちゃん、だれか見とるで。」
かつひこ「えっ。」
父親「かつひこ・・か？」
かつひこ「だれ？母ちゃーん。母ちゃーん。」
母親「かつひこ、大きな声を出して・・。」

ザッ、ザッ、ザッ
―父親が近づく足音―

父親「後ろにおるんは、たかお・・か？」
母親「あんた、ようご無事で・・。」

トントン、トントン、ザワ、ザワ
―金槌の音と遠くの子どもたちの声―

証言 高松空襲

あの日わたしは

証言⑪　酒井玲子さん

７月４日、警戒警報が解かれ、ほっとしていたときに空襲警報が鳴り、私たちは防空壕に逃げ込んだ。バリバリ、ヒューヒュー、メリメリと音が聞こえてきて、ここにいては死んでしまうということで、壕から出てばらばらになって逃げた。私は三歳の妹を負ぶって走った。八幡通りに出ると通りは火の海のようだった。逃げ込んだ向かいの八百屋から見た、我が家が焼け落ちる光景は忘れることができない。八百屋からも逃げ出し、偶然出会った近所のお姉さんにバケツ一杯の水をかけてもらい、お八幡めざして真っすぐ通りを走った。前には焼夷弾が火の玉のように落ちてきた。

証言者プロフィール

- ■当時　女学校１年生
- ■住所　天神前
- ■家族　８人
  - 父母
  - 子ども６人
- ■家業　病院

「あの日わたしは　高松空襲～当時を伝える証言者の声～」(高松空襲を子どもたちに伝える会)証言映像より編集

平和映画☆上映会のお知らせ

平和記念館映像学習室において、次のとおり平和映画を上映します(無料)。

１月の上映　**「お星さまのレール」**（76 分）

日　時▶　開館日の土・日・祝日、午後１時～

解　説▶　1940 年、朝鮮の新義州ですくすく育つ主人公チコ。日増しに激しさを増した戦争は、やがて日本の敗戦で終わる。そして、日本への引き揚げの逃避行が始まる。女優、小林千登勢さんの実体験を描いた児童文学が原作。

２月の上映　**「キクちゃんとオオカミ（野坂昭如戦争童話集）」**（45 分）

日　時▶　開館日の土・日・祝日、午後１時～

解　説▶　昭和 20 年、満州。敗戦とともに、日本人たちの退却が始まり、その道のりで幼いキクちゃんが病に侵される。置き去りにされたキクちゃんを救ったのは一匹のオオカミだった。野坂昭如さん原作の戦争アニメーション。

３月の上映　**「ふたつの胡桃(野坂昭如戦争童話集)」**（45 分）

日　時▶　開館日の土・日・祝日、午後１時～

解　説▶　気を失った彩花が目を覚ますと、そこは戦時下の東京。そこで出会った少女友子は、彩花が元の世界に戻れるよう願いを込めて、二つの胡桃の鈴の一つを彩花に分けてくれたのだった。

※　都合により、上映作品・期間等を変更することがあります。

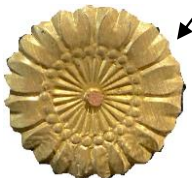
収蔵品紹介84

奉祝提灯

寄贈者　　山田　亮子 様

寄贈者の義父の遺品。天皇の即位を祝って使用された提灯である。特徴として、正面に「奉祝」という文字があり、両側面には日の丸、そして上部の口輪と下部の底輪には菊花紋が付けられている。昭和天皇の即位の際、または 1940(昭和 20)年の皇紀 2600 年を祝う提灯だったようである。

提灯行列は、一般に商店街の大通りで行うことが多く、奉祝提灯だけでなく、国旗も持ち、紅白の幕などで一面飾られ、華やかな祝賀ムードが漂っていた。令和元年にも日本各地で天皇陛下即位の儀に合わせて提灯行列が行われている。



菊花紋

平和記念館「企画展示コーナー」に展示中

戦時用語解説 76

掩体（掩体壕）

【読み】えんたい（えんたいごう）

【分類】航空隊の施設

掩体は、敵の攻撃から戦闘機を守るための構造物で、鉄筋コンクリート製のもの、木や竹などで造られたものがあった。陸軍林飛行場の周辺では、戦闘機を秘匿（ひとく）するために木や竹で造られた掩体がいくつかあったが、神社の社叢（しゃそう）や河川の茂みにも隠していた。現在、四国で掩体が残っているのは高知県南国市と愛媛県松山市の二か所である。

特に南国市前浜では、７基も掩体が残っており、前浜掩体群と呼ばれている。その一つの１号掩体にはアメリカのグラマン戦闘機によって激しい機銃掃射を受け、大小約 60 個の弾の痕跡がついていて、戦争の怖さを訴えている。

参考:「掩体は語る」南国市教育委員会
高松空襲戦災誌 高松市役所

編集メモ

10 月に上天神文化センターで開催した「戦争遺品等収蔵品巡回展」には、大勢の家族連れの皆さんにご来場いただきました。そのような中で、来場者の方から「高松空襲の焼夷弾の実物を初めて見た」とか「女神丸事件は戦争の悲惨さがよく分かる」という声を何度か耳にしました。戦後に生まれ、平和で豊かな世の中を過ごしていると、それが当り前になってきています。過去にあった悲しい史実を知ることで、自分の世代も、さらにもっと未来も平和を続かせていこうという強い気持ちが高まることを願っています。

たかまつミライエ

高松市平和記念館（たかまつミライエ５階）

開館時間：午前９時～午後５時（入館は午後４時 30 分まで）
休 館 日：火曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始12/29~1/3
入 館 料：無料
▼ホームページアドレス（平和啓発の推進事業がご覧いただけます）　▲QR コード
http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/jinken/keihatsu/heiwa/index.html

▶次回 95 号発行は、2025 年４月です。